

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673200079
法人名	社会福祉法人 正栄会
事業所名	ふるさとの家 郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市東俣町3853番地 (電話) 099-298-8118
自己評価作成日	平成22年8月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、自治会やいきいき会(老人会)に入会し、地域住民の一員として、行事に積極的に参加し、地域住民との交流をしている。
 2、研修に力を入れており、特に施設外研修には積極的に参加し、知りえたものを職員研修で発表してもらい、職員全員のレベルアップを図っている。
 3、認知症通所介護事業所を併設し、職員や入居者との顔なじみの関係を作り、入居がスムーズにできるようにしている
 4、入居者のできること・できないことを見極め、その人らしい生活が送れるようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当ホームは、木の造りの良さをふんだんに発揮した温もりと落ち着きのある生活空間となっている。
 ・地域とホームの緊密な関係により、地域の催しやホームの行事など、相互に協力や支援をしている。
 ・利用者の家族もホームのイベントや草取りなどに協力・協調して推進している。
 ・職員養成に熱意があり、各種資格取得に挑戦している職員が多い。
 ・職員にとって働きやすい職場となっており、職員の異動がほとんどなく、利用者や家族にとって、馴染みの関係ができています。
 ・運営者・管理者・職員の間関係や信頼関係があつく、何でも話し合う気風がある。
 ・職員は入居者から学ぶ姿勢があり、相互支援と学習の場となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域住民としての生活を送りながら、入居者一人ひとりが日々ゆったりと過ごせるようにしている	理念に基づき、地域との交流の中で、その人らしい毎日が送れるように毎月の全体会議で確認しながら、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の老人会・自治会に参加したり、ホームでの消防訓練は地域の方に参加していただいている	施設長の粘りづよい働きかけで、地域との密接な交流が築き上げられている。老人クラブ主催の旅行にホームとして参加したり、ホームの防火・避難訓練に地域住民が参加するなど日常的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の文化祭などに作品展示など行い、写真・資料等で地域の人々に取り組みを伝えている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自己評価や外部評価の結果を報告し、地域とのつながりをより深めるようになった。</p>	<p>地域の自治会長や老人クラブ会長・利用者家族代表・利用者等で構成された推進会議では、ホームの運営や地域との交流など幅広い意見交換がされている。地域のグランドゴルフ大会や忘年会に参加するなど、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市、特に支所に出向くことが多いが関係部署とは顔なじみになっており、包括支援センターとの連携も図っている</p>	<p>地元の郡山支所とは交流連携をしている。デイサービスとの関連もあり、地域包括支援センターとは地域情報の協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルを確認しながら、研修を行い身体拘束がないように努めている。併せて、言葉による心に拘束がないように常日頃から確認しあっている</p>	<p>身体拘束廃止のマニュアルに基づき研修を行い、身体拘束のない支援を推進している。言葉による拘束についても、取り組みを進めている。玄関や共用スペースからも外部への出入りは自由になっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修を行い啓蒙に努めている。また、デイサービス等の利用者は入浴等であざがないか注意を払っている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な方がなく、今後研修する機会を持っていきたいと思う</p>		

9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>管理者や計画作成担当で入居前や入居申し込み時に十分な説明を行っている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置しているが、あまり活用されていないので、家族が面会時直接話をして、意見を聞き入れるようにしている</p>	<p>面会時や、ホームの各種行事・運営推進会議に家族も参加し、日常的に意見の交換がなされ、要望や意見を運営に反映するようにしている。「中庭の芝刈りに参加したい」など意見や要望を運営に活かしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一回全体会を行い意見交換している。代表者へは月一回施設間連絡会において意見するようにしている</p>	<p>管理者と職員は、率直に意見を交わせる関係ができており、個別相談や運営会議を通じて意見や提案を受け、食事介助の仕方をはじめ運営についても反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は週一回以上ホームを訪問し、意見を聞く姿勢がある。また、給与規定や就業規則を整備し、環境を整えている</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験技量にあった研修に参加させ、研修報告の時間も十分とり、全ての職員が研修内容を共有できるようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、意見交換することで、サービスの質の向上に努めている</p>		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の生活様式、家族関係を把握しながら、困っていること、不安なこと、要望を態度や言葉の中から見出すよう心がけ、本人の安心につなげるよう努めている。</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの相談に対して、親身になって対応しており、電話だけでなく、直接訪問して話を聞くことで、できるだけ求めることを受け止めるようにしている</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込み時など、緊急を要すると判断した場合は、空床の事業所を紹介するなど親身になって対応している</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の残存機能を生かし、少しでもできる家事など一緒に行うよう声掛け見守り行い、共に生活している意識作りに努めている</p>	

19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の訪問、電話等での対応を大切にし、状況を話すことにより、絆を深め、本人を支えていく関係作りに努めている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣のデイや特養との交流の際、こちらから出向く場合は知り合いの多い日を選び、来ていただく際には知り合いの方をできるだけ連れて来てもらっている。生活していた地域の敬老会に個人で参加している</p>	<p>馴染みの人との電話や手紙・年賀状の交流など、関係が続くように支援している。以前、住んでいた地域の敬老会や地元のクリスマス会への参加、自宅やその近隣への訪問をして関係性の継続支援を行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係は把握できており、職員が間に入り入居者同士のコミュニケーションを図っている。また、自立している入居者が介助を必要としている入居者のお世話をしたりして、良好な関係が保たれている</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も相談を受けており、他施設・病院に転出した後も連絡が来ている</p>		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中、また、個別に部屋でゆっくり語る機会を作るなどして把握に努めている。朝の申し送りなどを利用し、本人本位の話し合いをしている	理念の「ゆっくりとした時が流れ、一人ひとりの心に寄り添い『できること』を発見する」に基づき、寄り添いの中から、思いや意向を把握している。困難な場合は目の動きや表情で汲み取り、本人本位で支援するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族・知人からの情報の中で入手し、記録にとどめて把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムは把握できており、レクなどでの活動状況も細かく報告している。また、できることを日々の生活の中でしていただきながら把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは本人や家族の意向を取り入れ作成している。本人の状況の変化時、家族の来訪時には、必ず話を行い、要望・家族の思いを把握する努力をしている	モニタリングは3ヶ月毎に実施している。介護計画はモニタリング結果や本人・家族の意見や要望を取り入れ、スタッフと話し合い、状況に即した介護計画を作成している。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>各種記録や申し送りノートを活用し情報の共有をしている。また、ケース台帳には本人ととの会話を記載し、そこから読み取れる本人の思いを書きとめ、計画の見直しに活かしている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>認知症対応型通所を行うことにより、グループホームという枠にとらわれず、在宅の家族の意見に触れることができ、柔軟な考えを持てるようになっている</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会・老人会役員の協力を得て地域行事に参加することにより楽しく生活を送っている。また、協力医療機関との連携により安全な生活が送れるようにしている。</p>		
30	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>11 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望を重視し、入居前の主治医に継続し受診できるようにしており、密な連絡も取り適切な医療を受けている</p>	<p>入居前のかかりつけ医での受診を支援して、治療の継続性を重視している。協力医療機関も状況に応じて支援するようにしている。</p>	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師やかかりつけ医の看護職員と連絡相談できようしている		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、できるだけ面会に行き、また、家族に連絡を取ることによって情報収集に努めている。退院前も必要に応じて医療機関に出向き、カンファレンスを行っている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針はできているが、契約はしていない。状況に合わせて家族と話し合いながら事業所でできることを説明し、方針を決めている。	重度化した場合の指針を定め、家族に説明し、職員も方針を共有している。終末期については、適宜対応できる機関での支援をするようにしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化しているが、年一回救急隊の指導により心肺蘇生の訓練を受けている		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行い、消防署立会いの下、地域の方にも参加していただき、訓練をしている。	昼・夜間想定での防火避難訓練を、消防署立会いの下で、家族や地域住民も参加して実施している。スプリンクラー・火災通報装置などの設備は完了している。災害時のマニュアル・備蓄もある。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>目上の人として尊敬の念を損ねないよう、丁寧な言葉使いでゆっくりわかりやすいように声掛けを行い対応するように心がけている。全体会でも都度伝えている</p>	<p>利用者の意向や意見を汲み取り、意向に沿った支援をしている。整容や排泄・入浴などのプライバシーや尊厳に配慮し、さりげない支援をしている。利用者から多くの生活の知恵を学んでいる。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>何かを行う時は、本人にわかりやすいようにゆっくりと説明し、自己決定しやすく支援している</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>極力一人ひとりのペースに合わせてられるようにしているが、入浴や食事など決められた日課に添って行われている。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>自分で洋服の選択ができる方には選んで着衣の支援を行い、出来ない方には季節にあった着衣の支援を行っている</p>	

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの苦手な食材を把握し、誕生会など好みの食事に心がけ、食材きりや盛り付けなど一緒にしている。また、畑で収穫した野菜をその場で調理して喜ばれている	畑に大根やジャガイモ・インゲンなどを植えて、採れたての野菜を使って調理し、職員と一緒に食べるなど、食事を楽しんでいる。母の日は入居者の希望のメニューを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事形態で出しており、食べる量、栄養バランス、水分量が確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じながら口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意・尿意のある人は、その時々トイレ誘導、見守りを行い尿意のない人の場合は、排泄パターンを考慮し、定期的にトイレに誘導している。	個々の生活リズムや、排泄の動向をこまめに把握して、さりげなくトイレ誘導をしている。オムツやリハビリパンツなどは、排泄の自立の方向で、使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分やヨーグルトなどの乳製品を摂り、運動する機会を増やしている		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>入浴日はおおむね決められているが、その日の状況により臨機応変に入浴していただき、清潔保持に努めている</p>	<p>入浴日は一応決めているが、利用者の意向に沿って入浴できるように支援している。失禁時はシャワー浴など臨機に使用している。入浴剤を使ったりして、気持ちをそそるようにしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼寝をしたり、ホールで横になりたいときはソファでゆっくり出来るようにしている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬一覧表がありわかりやすいようにしている。新しく処方された場合は必ず連絡表に記入し、共通認識を深めている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>野菜作り、チマキ作り、餅つきなど利用者の経験を活かせる行事を組んでいる</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節ごとに戸外へ出かけられるように、計画し、季節を感じる事が出来るようにしている。地域の行事等へも積極的に参加できるようにしている。</p>	<p>日常的には、中庭での散歩や畑の草取りなど、個々の状態と希望に応じて支援している。買い物やイチゴ狩り・都市農業センター・公園などへのお出かけや、地域との交流行事への参加などの外出支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの力に応じて、所持してもらい、使う機会を設けている。必要に応じて預かり金から出している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状は毎年書くようにしている。家族からかかってきた電話は取り次ぎ、希望があればかけてあげたりと対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>窓が多くあり、外の光がよく入り天候や季節感が肌でわかるようにしている。トイレや居室は一目でわかるような目印をしている。湿温度計で温度管理している</p>	<p>木造住宅の良さをふんだんに活かした構造となっており、床の木の感触、天井の木組みの力強さ、ゆったりとしたホールや廊下など温もりと安らぎを生み出している。採光や温湿度管理もなされ、季節の飾り付けや花を活ける等、居心地よい空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ゆっくり一人でくつろげるところにソファを置き、外を眺めたり、本を読んだり、友達と話したり出来るようにしている</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや衣類、仏壇や写真など大切なものを居室に備え、心地よい暮らしが出来るようにしている</p>	<p>エアコンとベッド以外は、すべて各入居者が持ち込んで、その人なりの空間作りをしている。テレビや馴染みの小物・仏壇・家族の写真・プレゼントなどを飾り、居心地よく落ち着きのある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>動線部分に手すりを設け、安全に移動できるようにしている。段差のない床やドアは開き戸にして車椅子の方でも動きやすいように考慮している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない